

携し茲に本同盟の成立を見たのである。

其の標榜する延は所謂社會民主々義にして其の行動も比較的穩健、最低賃金制、團體協約、等に對しても相當の實績を挙げ、未だ成立日尚淺きに拘はらず我國に於ける労働組合中、独特の歩みと續けて居る。

日本製陶労働組合第二回大會

- 一、日時 大正十五年五月六日
- 二、場所 京都市上京区寺町通丸太町上ル山口佛教會館
- 三、議長 木村愛次郎
- 四、代議員 四十七名
- 五、議案 十三件（保苗一、外可決）

當日東濃方面の代議員の出席少なく京都側より補充し、定刻を遅る、こと一時間半、即ち午前十一時に至り漸く開會、議長の挨拶、書記及各種委員の任命をなす。資格審査委員会は代議員四十七名全部を承認し、續いて評議會の野田律太、日本農民組合の前川正一、京都地方評議會の谷口善太郎等、祝辞、吳海軍聯盟、日本司厨同盟外三組合よりの祝電を朗讀し、休謁、午後一時半再會、自治會外四組合よりの祝電を披露し本部及各地の状